

世界の常識 日本の非常識

現在、世界中でヘルメットの安全性についての見直しが行われています。



アメリカのスネル財団が認定する世界で最も厳しいとされるスネル規格は、昨年9月より、それまでの90年規格から95年規格へと改正されました。この改正のポイントは、試験に使用する人頭型が、アメリカの運輸省が認定するDOTのものから、ISO（国際標準化機構）のものへと変更されたことです。ISOの人頭型は、より人間の頭蓋骨に近いカタチで、DOTのものより側頭部横方向と4隅が張り出した形状をしています。このISOの人頭型を使用することにより、衝撃吸収試験においては、前頭部横から、側頭部、後頭部横にかけての衝撃吸収性能が、90年規格以上に

このように欧米各国で、ヘルメットの規格が見直されているのは、バイクに乗るライダーの間で、安全性に対する関心が非常に高くなっているあらわれです。バイクに乗るならば、より安全なヘルメットを身につけたい。だからこそ、実際にヘルメットを購入するライダーに、安全性に対する基準をより明確にして、基準に適合する安全性を有するものなのかを、簡単に見分けられるようにしているのがヘルメットの規格だからです。



アライは、ライダーの安全をあくなく追求しています。ですから、世界各国で安全性に対する要求が高まっていくのは大歓迎です。特に最近では、アストロEからラバイドJにかけて、フォームそのものをより人間の頭に近



てバイクに乗っているのです。今一度、自分の身を守ることに、関心を持つことも必要なのでないでしょうか。少なくとも世界ではそれが常識なのです。



SZ- α II XXLサイズで登場!

(61-62)サイズで合わない方のために、SZ- α IIで(63-64)、(65)の特別サイズを発売させていただくことになりました。他のSZ- α II同様に、シールド付きオープンフェイスでは、国内唯一のスネル95規格を取得し、安全性能にも優れたモデルです。すでに2月下旬より発売も開始されています。ご興味のある方は、お近くのアライ取り扱い販売店にお申し込みください。



- モデル名: SZ- α II
- 規格: スネル95 JIS C種
- 色: 白、黒
- サイズ: (63-64)、(65)
- 価格: ¥28,000



厳しく求められるようになりました。さらに、試験箇所の面積も広げられ、ヘルメット下部の強度も今まで以上に問われています。ライダー側に立った実際の事故例に基づいた規格により近くなり、ヘルメットに対してさらなる厳しい要求を課しているのです。



一方ヨーロッパに目を転じれば、ECE（国連ヨーロッパ経済委員会）のヘルメット規格が、ECE-03から、ECE-04へと改正されました。こちらでも衝撃吸収試験の落下速度が7m/sから7.5m/sへと引き上げられ、落下高さが高くなっただけでなく、その衝撃試験での許容加速度も300Gから275Gへと引き下げられました。この許容加速度は、JIS C種規格では300G。A種では、なんと400Gであることを比較すれば、遙かに厳しい備であることがおわかりでしょう。

付け、しかも形状から剛性を導き出すような製品開発を続けていたので、スネル95規格を取得するには、側頭部の剛性を引き出すために、製品重量を引き上げなければならぬところを、逆に軽量化に成功し、ラバイドJでは、スネル95規格でありながら前モデルよりも、50グラム以上の軽量化にも成功しています。このラバイドJだけでなく、すべてのアライ製品は、その安全性能に関して、世界各国の検査機関のお墨付きをいただいています。



しかし残念なことに、日本国内では、欧米市場において、すでに見られなくなったファッション性を最優先させたような形状のヘルメットが、一部ユーザーの間で蔓延し、ヘルメット本来の役目である安全性能についての関心がライダー全体の中でも薄くなりつつある傾向が見受けられます。ライダーは身を重し